

JENDL-積分評価W.G 修正検討 adhocグループ 第 2 回 会 合 議 事 録

1. 日 時 昭和58年3月17日 (木) 13:30~17:30

2. 場 所 原研東海研究所研究2棟335号室

3. 出席者 7名(敬省略, 順不同)
菊池, 高野, 三谷, 長谷川(原研)
飯島(NAIG), 竹田, 錦織(阪大)

4. 配布資料

JENA-AD-5 : USE of Adjustment Procedure in
Simultaneous Evaluation (大阪大学工学部)

JENA-AD-6 : Adjustment に用いられた積分データ調査
NEUPACの方法(大阪大学工学部)

5. 議 事

- (1) JENA-AD-5 に基き, 竹田氏より同時評価方式での adjustment についての説明があった。

主なる論点

- ・竹田氏の説明による同時評価方式では繰返し手法による多段決定になっているが, 連立 eq による大きなマトリックスで解く方がよいのではないか, 又その方式が一般にいう Simultaneous Evaluation ではないのか?
- ・繰返し手法では, 各段階で解が出るから安心ではある。

- (2) JENA-AD-6 に基づき, Adjustment に用いられた積分データについて竹田氏より, 又 NEUPAC 方式について, 錦織氏より説明があった。

主なる論点

- ◎ 分布は Adjustment の対象としては入れたくない。

特に Blanket Region でおかしいのは, 格子定数に問題があるからである。

- ◎ Sample Worth も入れたくない。C/E の差が核データそのものから来るとは思えないからである。

- ◎ NEUPACの方法は, J1 Methodの近似計算であり, 分散が0の場合のみ正しいとのことであるが, それについては種々議論になった。
- (3) 菊池氏より, ENDF/B-V FORMATのFile 33 (共分散) data Fileについての説明が口答であった。
 - FORMATはかなり複雑で, 他のセクションで定義されるdataとのクロス・リファァーがかなり多い。
 - 実際に必要となった時点で, 又勉強する必要がある。
 - 処理プログラムは, 原研で作成する(or 導入)ことを考えている。
- (4) 全体討論
 - ◎ 今回までの議論では, 答申書としてまとまらない為, 次回に答申書の案を作成することになった。
 - ◎ 一応の作業目安として,
 - 作業体制 : W.G
 - 対 象 : FBRに限定し, 次回に, コードの骨組み, 必要作業等について検討することとなった。
 - ◎ 次回 4月22日(金)東海の予定